

学校名 [ 岡田小学校 ]

氏名 [ 伊藤 美穂 ]

[小] 学校 [4・5・6] 年版 単元名 [復興のためにできること (ボランティア・神戸招待)] P52・53, 54・55

教科・領域名 [ 総合的な学習 (6年) ] [ 時間 45分 ]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

**【ねらい】**

・ボランティアに取り組む子供たちの姿や岡田小学校における神戸招待を通して、自分たちが今できること、いつかできることを考える。

1 副読本「取り組もう！ボランティア活動」(52・53P)と、被災地の小中学生が行っているボランティア活動の映像(DVD資料『勇気を持って』)をもとに、今自分たちにできることを考える。

\* 「避難所に手作りの新聞を届け続けている中学生の映像」「震災復興車両に道端から手を振る活動を行う小学生姉弟の映像」をテレビで視聴させた。

**【児童の反応】**

- ・新聞をもらったおじいさんおばあさんたちがとても嬉しそう。新聞で大人たちを元気にしている。
- ・ボランティアというと大変なことみたいだけど、手を振るという行為だけでも人を勇気付けることを知った。

\* ワークシートに記入しながら考えさせた。

2 副読本「震災を乗り越えて」(54・55P)と、神戸招待のときの写真をもとに、復興のためにこれから自分たちができることを考える。

**【児童の反応】**

- ・自分たちの神戸招待が副読本にこんな大きく載っていてびっくりした。神戸の副読本にも載っているのもすごい。神戸と仙台のつながりを感じる。
- ・18年前の七夕招待があって、今自分たちが招待されたことが改めてよく分かった。神戸の方々に感謝したい。

\* ワークシートに記入しながら考えさせた。

\* グループで自分が考えたことを話し合い、その後発表させながら全体で共有した。

**【児童の伝えたこと】**

- ・相手を思いやる心から生まれた行為は、どんな小さなものでもボランティアになるということ。
- ・相手に返すことだけが恩返しではない。もらった恩を次の誰かにつないでいくことも、恩返しになるということ(恩返しのバトン)。

**【準備物】**

- ・パワーポイント・パソコン・大型テレビ
- ・副読本・ワークシート



**【授業の感想から】**

- ・今日の授業で、中学生や小学生でもがんばればボランティアができることを知った。復興を目指してがんばっていきなりたいと思った。
- ・ふるさとを復興させるには、どんな小さなことでも大切だと思った。だから私も小さなこと(あいさつ運動、オアシス言葉)をこれからも実行していきたい。
- ・今日の授業で神戸のことをさらにくわしくすることができた。岡田も宮城も早く復興してほしい。また、それに貢献できる人になりたい。
- ・ビデオを見て、小学生・中学生でもできることがあると知った。また、思いやりのバトンタッチ、いつになるかわからないけれどやっていきたい。

